
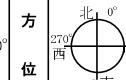



岩盤ボーリング柱状図

調査名 榎川支川5 災害関連緊急砂防事業実施設計業務委託（仮称）

事業名 または 工事名

調査目的及び調査対象 ダム 砂防

ボーリング名		Bor. 3		調査位置		広島県広島市安芸郡府中町みくまり1丁目					北緯		34° 24′ 3.9235″			
発注機関		広島県西部建設事務所					調査期間		2019年 8月 6日 ~ 2019年 8月 7日				東経		132° 31′ 5.9457″	
調査業者名				主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者						
孔口標高		T. P. 54.76m		角 度		方位		地盤勾配		使用機種	試錐機		東邦D1-B58			
総削孔長		9.00m									エンジン		ヤンマーNFD12		ポンプ	

標尺	標高	深度	工学的地質区分名(模様)	工学的地質区分名	色	風化の程度	変質の程度	硬軟	コアの形状	割れ目の状態	岩等級	コア採取率 ××(%) 最大コア長 cm R Q D ——[%]	地質時代	記	孔内水位/測定月日	標準貫入試験 深度-N値図	原位置試験	室内試験	削孔状況
(m)	(m)	(m)												事	値				
1	54.21	0.55	SP	表土	黒褐～暗黄褐							0 [0] (100)		表土。0.20mまで木葉草根を含む。以深部位置で土壌化したシルト泥り砂質土。	08/06 ▽ 6.56	1.15	0		S M I
2				マサ状風化花崗岩	暗黄灰/黄灰/淡黄灰	w5	h4	E	VI	d	DL	0 [0] (100)		花崗岩のマサ状強風化部で軽打で粉体化～砂状化する。原岩組織は殆ど残存しないが、深部の深達3.0m付近より残存している部分が見られる。指圧で容易に細砂状になる。コアはシングルコアチューブ打込みで採取した。深達3～4m間のコアはコアバックで棒状に採取されるが、軽打でボロボロに砂状になる。	08/06 ▽ 6.56	2.15	13		S M I
3												0 [0] (100)				2.45	26	90	B2
4	50.76	4.00		強風化花崗岩	淡黄灰/淡黄褐	w4	h3	D	IV	c	DM	0 [0] (100)		花崗岩強風化部。原岩組織完全残存。コアはコアバックにて完全棒状コアとして採取されるが、指圧でバラバラに壊状になる。殆ど鉱物が判別できる。	08/07 ▽ 6.56	3.15	56		
5												0 [0] (100)				4.15	83	272	
6	48.76	6.00										40 [40] (100)		深達6.7m付近までN値50回で12cm貫入部分(換算N値125)。鉱物の風化は進んでいるが岩組織完全に残存する。ハンマーの打撃で容易に崩せる。カリ長石がピンク色を呈する。深達8.4m付近までは風化しているものの硬質を花崗岩。コアはコアバックにて棒状完全コアとして採取される。深達6.7～7.5m間傾斜45°割れ目に沿って脆い。深達7～7.5m間割れ目に沿って脆い。部。コア砂状に採取される。	08/07 ▽ 6.56	5.15	125		
7				風化花崗岩	暗黄褐～淡乳桃灰	w4	h2	C	III	c	CL	38 [38] (100)		カリ長石がピンク色を呈する広島花崗岩。コアは縦柱状完全コアとして採取されるが脆い。ハンマーで両音～一部金属音を発する。傾斜10度から15度の割れ目と傾斜60度が発達する。	08/07 ▽ 6.56	6.15	500		
8	46.36	8.40										10 [10] (100)				7.00		8	300
9	45.76	9.00		弱風化花崗岩	暗灰～淡桃灰	w3	h2	C	III	b	CM					8.00		96	250
10																8.03		250	200
11																9.00		150	150
																9.00		8	7